

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2371301165
法人名	社会福祉法人愛生福祉会
事業所名	グループホーム集い
訪問調査日	平成 20 年 12 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 18 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2371301165		
法人名	社会福祉法人愛生福祉会		
事業所名	グループホーム集い		
所在地	名古屋市守山区瀬古3-830 (電話) 052-793-7004		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成20年12月25日	評価確定日	平成21年2月18日

【情報提供票より】 (平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 12人, 非常勤 11人, 常勤換算	7.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	陸屋根3階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	800 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	61 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野外科
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスが併設され、デイの延長や介護保険外の宿泊も可能でグループホームへの入居時の導入としても活用されている。社員寮を転用した建物で3階は屋上テラスとなっており、昼食会や家族参加の夕食会を開くなど居住空間の広がりとして活用している。職員は入居者とのコミュニケーションを重要視した支援活動を行い、その結果、入居者の心身の状態が改善したり、終末期の看取りについて医療関係者との連携や他の入居者への影響に配慮しながら介護をしており、これらは貴重な経験となっている。入居者にとって受け入れられ見守られながら生活できる居心地の良いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点としては、玄関先に用意されている苦情対応窓口の表示、意見箱の設置、意見記入用紙の表示、訪問者カード、外出カードをわかりやすく表示するなど工夫されている。また、職員の名前と顔写真を表示して来訪の方にわかるよう工夫がされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は日々の介護支援の中では気づかないことを含めて、サービス向上のための事柄や取り組みできたことの結果を確認する機会として評価を活用している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、入居者、入居者家族、町内会役員、福祉事業関係者の参加によって開催している。会議内容としては、ホームの行事内容の反省や今後の計画、入居者の地域活動への参加についてなど具体的で前向きな意見や情報を得て、事業に取り入れサービス向上に役立てている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見を会議で話し合い、速やかにケアに反映させている。時には行事のアンケートを行うなどして運営に活かす姿勢がある。また、訪問者の意見箱の設置や外部の相談機関の表示の仕方など工夫している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入して、行事に参加している。外出時は地域の人々と挨拶や立ち話をし、常に利用する喫茶店や商店の人とは馴染みの関係もできている。地域のボランティアの訪問もあり、大正琴を入居者と一緒に聞いたり歌ったりして楽しんだり、また、地域の救急避難場所になったりと交流や連携が広がっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内の共通理念であるが、グループホームとして地域社会での生活を支援するため、その人らしく暮らし続けていくことができるようサポートしていくことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議で理念の共有を図っている。また、理念についての手引きを常にもって日々確認、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校区の災害避難場所となったり、110番救急避難場所となっている。また、地域のボランティアの受け入れを行い、地元の人と交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について管理者と職員は理解しており、昨年の外部評価を活かし玄関付近に意見箱の設置、外出届、外泊届、意見記入用紙のわかり易い表示など工夫に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員会議の1週間前に運営推進会議を開き、その場で出た意見をサービス向上に活かしている。また、サービスの実際や評価への取り組み状況について、報告と話し合いができています。	○	運営推進会議に出席できなかった職員が後で会議内容がわかるように内容を記録されることが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の社会福祉協議会にボランティア派遣を依頼したり、権利擁護センターと連携をとってサービス向上に理解を深めるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「集い便り」を発行し、入居者の健康状態、金銭管理、近況、職員の異動などについて各入居者家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者家族が2名参加している。家族の来訪時にできるだけ声を掛けるよう心がけ、意見の反映に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者へのダメージを防ぐため、新入職員に対し教育係りを決め、入居者と馴染みの関係が築けるよう、介護の方法、関わり方、感染症などについて指導し、実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に職員は順次参加している。また、ホーム内では職員に各自テーマを持たせ参考資料を使い研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業者と交流の機会があり、学習とネットワーク作りに役立っている。	○	法人外の同業者とも交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会などの交流を活用されることが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスや宿泊サービスを利用して、少しずつ雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のコミュニケーションを大切と考え、本人から学んだり、支えあう関係づくりに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションやアセスメントシートを活用して、入居者一人ひとりの希望を把握し、本人の意向を最優先するよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時や電話連絡時の声がけに努め、意向を伺うようにしている。本人の意見を日々のコミュニケーションから把握してケアプラン作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者本人の状況変化時には、本人や家族と話し合い随時ケアプランの見直しに取り組んでいる。また、状態変化がない時は、6ヶ月に1回見直しを行っている。	○	3ヶ月に1回見直しを行うことが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスのレクリエーションに参加したり、自宅介護が困難となった時のデイサービスや宿泊などでの対応について、本人や家族の状況に合わせて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に納得が得られた場合、協力病院医師に週に1回往診していただいている。また、本人や家族の希望があればかかりつけ医受診の支援にも取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族に意向を確認し、かかりつけ医とも話し合い、全職員で共有し介護に取り組んでいる。昨年ホーム内でターミナルケアに向けた取り組みもできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	言葉遣いに気をつけて日々対応・記録を行うよう取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで生活できるよう食事時間も本人の食べたい時間に合わせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、セッティング、片付けなど入居者と一緒に行うよう取り組んでいる。また、家族の協力または職員の支援で外食も適宜されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は職員の都合で決めてしまいがちだが入浴するタイミングはご本人の希望にそって無理強いしないよう取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	春はお花見、秋は紅葉、夜はイルミネーション見学など入居者に希望を聞きながら楽しみごとや気晴らしの支援に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、喫茶店に出かけるなど外出の機会を日常的に取り入れるよう取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。人の出入りはセンサーで感知し、突然1人で外出する方も止めるのではなく、まず見守るよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回訓練を実施している。運営推進会議で災害時の協力体制などを確認するよう取り組んでいる。また、ライフライン復旧のめど の3日分の水と食料を確保している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に2ヶ月に1回程度食事メニューについて栄養評価をしてもらっている。また、食事摂取量の確認や水分摂取量をチェックし、個々の状態に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や写真を飾ったりして季節感を出す工夫をしている。また、机やベッドの位置を考慮し居心地の良い空間となるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールやベランダにソファを置き、くつろいでいただけるよう共有スペースの配置を工夫している。		

※  は、重点項目。